

令和3年度第2回高知県教育振興基本計画推進会議 質疑・応答、意見交換の概要

日 時：令和3年11月8日（月）10:15～12:00

会 場：高知共済会館 3階「桜」

【議 題】

- 1 副議長選出
- 2 令和3年度施策の進捗状況（2-四半期）等について
- 3 喫緊の教育課題を踏まえた今後の取組について
- 4 厳しい環境にある子どもへの支援について

■議題1

○副議長選出

（岡谷議長）

本日は、新型コロナウイルスの状況が少し落ち着いたということで、対面で高知県の教育について議論できることにありがたく思う。ぜひ本日は忌憚のないご意見をいただきたい。

それでは、本日の議題1である本会議の副議長の選出に移らせていただく。昨年度の副議長であった細木委員が退任されたことに伴い、設置要綱の第4条3項に基づき、副議長を指名する。私としては、昨年度の細木委員に引き続いて、市町村教育委員会連合会会長の竹内委員にお願いしたいと思うが、いかがか。

（各委員：拍手）

（岡谷議長）

拍手をもってお認めいただいたので、竹内委員に副議長をお願いする。

（竹内委員）

岡谷議長にご指導いただきながら、会議をスムーズに進めさせていただきたいと思うので、ご協力お願いします。

■議題2

○令和3年度施策の進捗状況（2-四半期）等について

（岡谷委員）

令和3年度施策の進捗状況について何かご意見ご質問等があればお願いします。

（是永委員）

資料1-2の8、9ページの厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実について、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用例があるが、教育相談において発達検査をしてくださるスクールカウンセラーが特別支援学校以外に配置できるのか、また9ページに関しては、親育ち・特別支援保育コーディネーターによる保幼から小学校への引き継ぎの部分で、どんなツールを使っているのか。引き継ぎシートなのか、個別の指導計画なのか教えていただきたい。

(人権教育・児童生徒課長)

各学校のスクールカウンセラーと、心の教育センターのスクールカウンセラーについて、発達検査をその業務内容として位置づけていないが、今後そういった発達検査が各学校で必要になってくることを踏まえ、検討していきたい。

(幼保支援課長)

親育ち・特別支援保育コーディネーターが小学校に引き継ぎをする際の様式は、個別の指導計画の様式を示しており、それを活用し繋げていただいているものと承知している。

(是永委員)

個別の指導計画がどうしても障害児に限定されがちなので、この親育ち・特別支援保育コーディネーターなどが多様な考えだったら、もう少し対象を広げているんな理由で困っている子どもに使っていただければいいと思った。

■議題3

○喫緊の教育課題を踏まえた今後の取組について

①小中学校学力向上対策

(岡谷議長)

1つ目の小中学校学力向上対策について何かご意見ご質問等あればお願いします。

(福本委員)

1ページの真ん中の下のグラフのところで、小中学生は今まで時間で計るしかなかったと思うが、学習をどれだけして効果があったかという、掛けた時間が必ずしも結果と一致しないと思う。学習支援プラットフォームが使えると思うが、参考資料を見るとログが取れているようである。ログの活用で時間ではない評価ができると思うが、その辺りはどうか。

(小中学校課長)

ログの活用により、どれだけ成果が出るかということ把握していかなければならない。今回、全国学力・学習状況調査でも、基礎基本の徹底という部分で弱い部分があるので、これからデータを有効に活用していきたいと考えている。

(福本委員)

ぜひ有効に使っていただきたい。一方で、ログデータを使う際に、個人情報保護の観点から使いづらいというところもあると思うが、その辺りは大丈夫か。

(教育政策課長)

個人情報については、学習履歴は取るが、操作ログは取るようにはしていない。

(福本委員)

難しいとは思いますが、ぜひ操作ログも取れるように検討してほしい。

(是永委員)

分かりやすい授業づくりということであれば、ユニバーサルデザインの冊子なども作られている

ので、そちらにも関わっていくのかと思う。そういう授業づくりと、ユニバーサルデザインの分かりやすい授業づくりの関連は文言にはないが、いかがか。

(小中学校課長)

ユニバーサルデザインの授業づくりについては今までも取り組んできており、授業づくり講座の視点などにも入れ指導主事が訪問の中でも話をさせていただいている。

(岡谷議長)

小学校の教科担任制について、1点お聞きしたい。普通、小学校は学級担任制であり、中学校になると不登校が増える。これを中1ギャップと言い、中学校は教科担任制になるのでとも言われている。小学校の教科担任制が進むと、児童への関わりが薄くなるのではないかということが心配されている。少人数学級にしていくという前向きな意見をいただいているのはすごくいいことだと思うが、その辺りはどういう検討がされているか。

(小中学校課長)

現在、小学校における教科担任制の在り方検討委員会でも話をしているが、今年度、小学校で37校を指定し、教科担任制を行っている。指定校の校長先生に聞き取りをする中で、専門性が向上しているという話も聞いている。専門性が向上し子どもたちにとって授業が理解できるようになることによって、居場所があると感じることにつながり、不登校対策や学力向上対策ともなると考えている。

(岡谷議長)

さきほどの視点からも色々と話し合っただければと思う。

②高等学校における基礎学力の定着・向上（学校支援チームによる学力向上の推進）

(岡谷議長)

2つ目の高等学校における基礎学力の定着・向上について、ご意見ご質問等あればお願いします。

(是永委員)

D3層がいつも課題に出てくるが、中学校の教育評価とこのD3層の関係はどのように見ているか。

(高等学校課長)

高校入学後の4月段階でD3層の割合が減少している。先ほどの小中学校の検査結果からも成果が見て取れる。D3層が減少はしているものの、高等学校課としては、学校支援チームが、現在計画をしながら、それぞれの学校に応じて支援をしている。

(是永委員)

D3層はいきなり高校から出るわけではなく、中学校のどの評価でこの生徒はD3層になりそうといったことを見たらよいか。

(高等学校課企画監)

高校入学段階の検査結果で見ると、一番ポイントになるのは国語の部分である。語彙力や文章に

対する見方などが入学段階から弱いといったところはある。そういったところについては、中学の時にやっていくというところに繋がりがあある。

(是永委員)

県版学力調査の国語の結果を見たらよいということか。小中学校課の評価とどう繋がっているのかを知りたい。

(小中学校課)

高校に限らず中学の段階から言語活動に力を入れて取り組んでいる。今回の全国学力調査の伸びはその成果の現れではないかと考えている。

一方で、算数、数学の基本的な問題が解けていない。こうした基本的なことができていない部分を高校にもちこすと、D3層にも繋がってくるので、基礎基本の徹底とプラスアルファで言語能力の育成をと考えている。そのために県版学力調査結果を一つの指標としている。

(高岸委員)

小学校の英語が導入されたが、英語の全国学力・学習状況調査は定期的実施される予定か。

(小中学校課)

英語は一度導入されているが、次の実施は再来年。来年度は理科が実施される。

(高岸委員)

英語の力についても、高等学校課の資料を見ると入学時で英語のD3層の割合が高いので、できれば小学校、中学校から、是永委員の意見と通じるが、連続的に分析をしながら高校段階に繋げて、高校でも頑張るという形ができればいいと思う。せっかく県版学力調査でいいものがあるので、繋がっていく形で分析できたらと思う。

(岡谷委員)

そことスタディログが結び付けば、個別最適化された学習が実現していくのではないかなと思う。高知県は子どもが少ないので、一人一人の状況を把握するというのは高知県でしかできないのではと思う。

③不登校への総合的な対応

(岡谷委員)

3つ目の不登校への総合的な対応についてご意見ご質問等あればお願いします。

(是永委員)

三本柱のうち、未然防止において一番の取組が「わかりやすい授業づくり」だったのではないかなと思うが、それが高知夢いっぱいプロジェクト推進事業に集約されているのはなぜか。

(人権教育・児童生徒課)

高知夢いっぱいプロジェクト推進事業は、不登校への対応ということになっているが、この中には自尊心を育むための様々な取組や分かる授業づくりということが含まれている。一番の未然防止は授業の中で、子どもたちにわかりやすい授業を実施したり、その中で開発的な生徒指導を

実施したりするということである。高知夢いっぱいプロジェクト推進事業で実践してきた授業づくりをすべての学校に広めていきたいと考えている。

(門脇委員)

不登校への総合的な対応では、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーが役割を担っているが、コミュニティスクールディレクターも協力できることがあるのではないかと考えている。コミュニティスクールディレクターは、キャリア教育を視野に入れて学校の支援をしていこうという方向で研修を重ねている。そういったコミュニティスクールディレクターとか、地域コーディネーターも不登校の未然防止の役に立てるのではないかと考えている。授業についていけなくなったことで不登校になっている場合も多いと思うが、キャリア教育の視点を未然防止の取組の中に取り入れてはどうか。

(人権教育・児童生徒課)

スクールカウンセラーもそうだが、このスクールソーシャルワーカーと地域の人たちとのコミュニティ、各市町村にいるサポーターとの連携は非常に大事だと思っている。学校を卒業した後、社会人になってからの支援も必要になってくると思う。そして学校が把握していない情報で、福祉の方がもっている情報を学校と共有させていただき、学校での取組をそのような方々と共にやっていくことも、未然防止、自立支援に繋がっていくと思う。地域学校協働本部やコミュニティ・スクールも含め、非常に重要な要素だと考えている。

(矢野委員)

このように不登校への取組を見て、皆さんがどれだけ尽力されたか非常に評価できることだと思う。

紹介も含めてだが、学校によっては随分地域性が反映されていて、例えば子どもたちの月曜日の出席率が落ちる学校もある。そこで高知大の教育学部の体育の学生に協力してもらい、そのような学校へ行き、月曜日の始業前の1時間に遊びプログラムをやる。具体的にはサッカー部や陸上部の学生たちが鬼になり、子どもたちと一緒に走り回る。そうすると出席率が上がり、不登校の子も来るようになったというデータが出てきた。我々としても子どもたちが学校に行きたくなくなるようなきっかけを作るといふ取組が未然防止にも非常に重要なことだと思い、続けているところである。その中でぜひお願いしたいのは、その地域性によっていろいろな学校がいろいろなことを考えてくださり、それを提案し予算がつき、その施策をすることで特色に合わせた不登校の防止対策だとか、不登校の子たちを減らす、未然防止のコツが見えてくるのではないかと感じた。

(人権教育・児童生徒課)

休み明け、週初めに欠席する子どもが多いという状況は考えられる。先ほどの未然防止の観点からいくと、高知夢いっぱいプロジェクト推進事業は基本的には学校の取組を重視している。PDCAサイクルを回すということで、子どもたちのアンケートを取りながら1学期に1回ずつ、子どもたちの変容を見ながら、その取組の精度が上がったかどうかということを絶えず検証しながらやっている。先ほどの月曜日に実施するような行事や地域と一緒にやる行事というものを取り入れ、PDCAサイクルで効果を見ながら進めていき、成果があったものを他の学校にも広めていくといった取組が有効であると思う。

(矢野委員)

今のところ、一番シンプルな鬼ごっこでやっているが、半期行ったところで、子どもたちから今度はこんな遊びをやったらどうかという提案が出てきた。より自主的に、体を動かそうという意識が高まってきた。高知大の観点からいうと、そういう経験を踏まえた者が、今度、採用試験を受けて、本県の教育に携わるような教員になっていくと円環的な意味合いもあって、肯定的な施策であると考えている。不登校プログラムみたいなものにまで繋げられたらいいのかなと思うのでぜひ協力をお願いしたい。

(有田委員)

大学生と体をいっぱい使って遊ぶことも必要だと思う。中学生などが幼稚園や保育所に行って遊ぶと、園児から「お水くんで来て」とか、「あそこまでだっこして」と言われることが、自分にとってとても意味がある。私自身も少し取り組んだことがあるが、普段学校で見られない兆候があったという話もある。これはすべての学校でできるわけではないが、面白いことができるのであれば、幼稚園、保育所に行って、自分が実感できるような取組もアイデアとしていいのではという提案である。

(是永委員)

矢野委員も言われたことだが、不登校はやはり生活が厳しいという背景もあると思う。ヤングケアラーの話にもなるが、生活をどう立て直していくかというところで、様々なところと連携が必要になると思うが、ここに書いてあることは基本的には小中を中心として書いてある。高校ではどうするのか。寮がある高校や小さな中山間地域の高校など、やり直しができる高校がないと中卒では仕事ができない、自立ができないということがある。私立も含めて不登校の子が行くところがないと思う。その子たちが、やり直しができるような後期中等教育という展開も入れて欲しい。

(門脇委員)

矢野委員の話にもあったが、自分も今、教室に入れないうちと学校で人生ゲームをやっている。その児童は人生ゲームであつという間に大金を稼ぐ。その子に、「こんなところで偽物のお金を数えてる場合じゃないから、絶対に将来大金持ちになるから、算数の授業だけは出たほうがいいよ」と言うと、算数の授業に出ている。次には、「大金持ちになったらいろいろな契約書を書いたりしないといけないから。そのときに、国語を勉強していないと漢字が読めなくて騙されるよ」というと、国語の授業にも出るようになる。というように動機付けが大事だと思う。その子は算数がすごく得意なので、人生ゲームやトランプに興味があるが、ゲームを通して勉強に興味を持つこともあるので、地球温暖化のゲームで環境学習をすとか、他にも教育に関連したゲームがたくさんあると思うので、月曜日はゲーム学習の日といったような、面白い勉強法を取り入れてもいいのではないかと思った。

(是永委員)

先ほどの高校の特色ある取組の中で、不登校対応は出てこないが、不登校の対応の中で後期中等教育の活用性は出てくるか。

(高等学校課長)

高校の方はここではお示ししていないが、不登校の割合は若干減少している。

(是永委員)

中学校で不登校だった方を前向きに受け入れるよう、検討をお願いしたい。

(高等学校課長)

中学校あるいは小学校で不登校の経験者については、それが高校入試に影響することはなく、個々の生徒の学力や意思を確認して、入学を許可している。

なお、小学校、中学校の義務教育段階の内容が、学習面で厳しい生徒に対しては、高校では学校設定科目という学び直しの科目などを設定している学校もあり、そういった学校を中心に高校生活を送れるよう努めていく。

(岡谷議長)

不登校生徒を特に受け入れる高校も全国にはあるので、そういうのを高知県ではどうかというご意見であった。

④保幼小連携・接続の取組

(岡谷議長)

続いて、4つ目の保幼小連携・接続の取組について、ご意見ご質問等あればお願いする。

(有田委員)

保育所、幼稚園には民間が多く、なかなか研修に参加してもらえない園がある。幼保支援課の事業で民間の保育所へも支援に入っているが、どんどん進んでいっている園と研修を受けてない園があるので、何らかの形で研修を受けていただくようなものをぜひお願いしたい。

また、保育所の先生方は8時間労働で、子どもたちが11時間とか12時間とか園にいる間、先生は交代している。朝、子どもたちを出迎えてから帰るまで8時間、先生は子どもから離れることができない中、子どもの記録をつけたり、研修に出て学んだことをどう振り返ったりしていくのか。発達障害の子どもについては個別の計画を作らないといけないが、そんな時間は全く保障されていない。どこで作るかと言えば、子どもたちを寝かしつけた昼寝の時間などを使っている。幼稚園や学校の先生方とは違って、子どもから離れる時間が全くないのが、保育所の先生方の現状である。何らかの形で研修ができる仕組みができればいいかと思う。熱心な園の先生方は、研修ができるような体制を作っているが、研修に出ている間の保育士の確保も難しいところもあって、厳しい状況である。保育所・幼稚園等の先生が子どもの成長記録を残していく、そんな時間の確保がなんとかできるよう、難しいとは思いますが検討をお願いしたい。

(幼保支援課長)

園内研修については、各園の保育者の様子を他人に見ていただくことで、気づきとモチベーションを得られることが多いというふうに、私自身も研修に参加して感じている。

そういうものを、研修の意義を含め、個別の園の理解を得ていきたいし、やはり市町村行政の理解は不可欠であるため、市町村にも話し合いを続けていきたい。

もう1点、保育士の負担軽減という意味で言えば、保育所、幼稚園はコロナ禍においても原則開所ということで、感染対策を徹底しながら開所を続けてきた。お話にもあったように、子どもとずっと接した状態である。県の方の施策を紹介させていただくと、一つは、保育補助者といって、保育士でなくても、保育所の業務をお手伝いするような方の配置を行っている。もう一つ今年度から始めているのは、保育所の経営者の皆様に業務改善、働き方を見直していただくための研修を実施

した。

こうした形で、業務負担の軽減にも留意して取組を進めていきたい。

(是永委員)

以前は家庭支援の計画というものが新しく出ていたのではないかと思う。有田委員がおっしゃるように、すごく忙しい中で個別の指導計画が作れるかどうか、そこに家庭支援の計画もある。そのあたりの整合性や負担軽減に関してはいかがか。

(幼保支援課長)

しっかり園としてその子どもを支援していくという意味合いで、家庭支援が必要な子どものリスクを引き継いでいくという考えでやっているものである。時間のない中でのお願いにはなる。

(是永委員)

それは小学校にも引き継がれるか。

(幼保支援課長)

すべてというわけではないが、場合によっては、小学校へ引き継ぐよう求めている。

■議題4

○厳しい環境にある子どもへの支援について

(岡谷委員)

それでは、4つ目の厳しい環境にある子どもへの支援についてご意見ご質問があればお願いしたい。

(是永委員)

ヤングケアラーの問題は昔の虐待の問題に似ていると思う。当事者が声を出せないとか、保護者の考え方がかなり影響するというところで、虐待に関してどこに伝えればいいのかというのを、今市町村単位で要保護児童対策地域協議会などの組織を作っていると思う。

虐待対応を考えたときに、いずれも学校へ行かせないとか、学校行事に参加させない、家庭が大変だから、放課後児童クラブに行かせない、放課後はきょうだいの面倒を見るということなどがある。そうした場合に、虐待と同じ点、例えば要保護児童支援対策は虐待に使われていると思うが、違う点をどのように考えているか。

(教育政策課長)

まだこちらの方は検討が始まったばかりだが、虐待問題に似ているというご指摘は確かにそうだと思う。今いただいたご指摘を踏まえ、連携し協議していきたい。

(是永委員)

虐待は、どちらかというとき小さい頃であるが、ヤングケアラーは家事などができる年代、例えば小学校の中・高学年、中学生、高校生の課題だというところが大きく違うかと思う。子ども自身を育て、意見が言えるようにする。また保護者には福祉の支援を入れるなどして、部活動をやっていよなど、保護者支援と、本人を育てるという視点が必要となるのが虐待とは違うと考えている。

(石原委員)

是永委員がおっしゃった、ヤングケアラーの子ども自身への教育で、「ここまでしなくていいんだ」とか、「もっと自由な時間をとっていいんだ」という意識を子ども自身が持てるようにすること。ソーシャルワーカーへの相談は、急いで帰らなくてはいけない、時間の余裕も心の余裕もない子どもたちが、自分の空いている時間に相談できるようにしてほしい。例えば、トイレの個室にDV相談についてのカードがあるが、そういうものを小学校のトイレの個室の中に設置して、子どもがすぐ持って帰ることができるよう、自分が相談したいときに相談できるような環境を作っていたらと思う。

(人権教育・児童生徒課)

学校にはスクールカウンセラー等を配置しているが、外部の相談窓口については、24 時間電話相談を実施している。これは夜間、昼間とも電話が繋がるようにしている。すべての子どもたちに、電話番号を書いたカードを毎年配付している。

また高校生については、LINE相談もやっている。もともといじめがきっかけで始めた相談事業だが、いじめに限らず、いろいろなことについて相談してもらいたいということで、3期に分けて、昨年度は89日間、相談事業を実施した。生徒たちにチラシや先ほどのようなカードを配り、そこにQRコードがついているので、それを読み込み、LINEで相談をしてもらおう。ヤングケアラー関係の相談も含め、様々な相談を受け付けているので、さらに周知を図っていきたい。

(矢野委員)

都内の学校で問題になっているのが、親が外国人で、例えば子どもは学校に行かずに妹の面倒を見るのが当たり前という考え方もあり、優先順位が違っていて本人が非常に困っている。しかし親はそれを悪意を持ってやっているのではなく当然だという、価値観の違いがある。そうなってくると、親に対しての教育も必要になってくる。新宿の歌舞伎町を校区とする中学校を視察したときには、全校生徒の半分以上が外国人であった。日本人以外の方が多く入ってくると、そういう問題で学校としても大変苦勞する。高知県も現状ではそういう状況は少ないかもしれないが、そういったことも含めて考える必要があるかと思う。

(有田委員)

市町村児童福祉担当部署との連携の中にある、スクールソーシャルワーカーのケース会議への参加や支援方針の確認について、これは具体的にはどのような感じか。

(人権教育・児童生徒課)

学校の方でヤングケアラーに関する子どもたちの情報を、スクールソーシャルワーカーがつかむと今までならばスクールソーシャルワーカーが直接家庭に訪問していた。それを一度市町村福祉担当部署に相談して、学校の情報、そして市町村が出せるような情報、そういうものをミックスして一旦検討し、例えば市町村の保健師と一緒に訪問するといった支援体制をしっかりとる必要がある。

(有田委員)

例えば是永委員が言われたように、要保護児童対策地域協議会が地域にあるので、具体的に早く支援していくためにはそういうものの活用も考えられたらどうかと思った。

(小串委員)

不登校の問題やヤングケアラーの問題は、そういった各家庭の事情が結構大きいと感じている。私たちもPTAという組織で様々な形で広報活動や、教育委員会に協力いただきながら研修活動を重ねているが、こういった本当に必要な方には、私たちの研修は届かないというのが実際のところである。先日も研修については、オンデマンドを活用してハイブリッド方式という形で行ったが、関心を持っていただけないというところもある。

不登校というのは、学校と家庭だけの問題ではないような気がしており、教職員の方も、魅力のある先生になっていただきたい。家庭で居づらかったり、学校にも行けなくて公園にいたりというような子どもたちが、魅力ある先生がいたら、「学校に行ったらあの先生に会える」、「話ができる」という気持ちになる。そのような人材を作っていただくことも、不登校を防ぐ策ではないかと思う。

ぜひ教育の現場で、人間醸成の研修活動をもっと大々的にやっていただいて、先生方が請負った仕事だけではなく、いろいろな社会的な見方を持った中で、子どもたちを広く、多くの視点から見上げる、そういう先生を育成することも取り組んでいただく必要があるのではないかと考えている。

(佐田委員)

不登校のところで、校内支援会とか連携とか必要になるが、組織が変わると、実際連携をしていくことが大変になる。

校内支援会の中でも、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、教員など、いろいろな職種が混ざってくると、それを統括することが非常に難しく、組織的な位置付けをしっかりとしていくことが必要だと思う。

ヤングケアラーの部分で、自分でヘルプの声を上げることが非常に難しい。ヤングケアラーの年齢が上がると、「よいことをしている」、「お母さんのため」、「見捨てられない」といった、心理的に離れられない状況ができあがってしまい介入が難しくなるので、できるだけ早い段階からリスクの芽となりそうな事情を抱える家庭には、経済的な事情や外国人の保護者の言葉への手助けをすとか、何か対応していかないと介入できないしヘルプも出せない。

(竹内委員)

県ではこういう計画を実行していただいているが、実際に動くのはほとんど市町村の問題になるので、その辺りも県との足並みをそろえて、自分たちの役割としてやっていく必要性を感じた。ヤングケアラーなど、虐待と共通するという点、子どもの自死の問題も非常に共通するところがある。そういったいろいろな課題で共通する部分については、答えが出せるかどうかは分からないが、対応方法も似通ってくる。そういう意味において、スクールソーシャルワーカーは非常に大事な役割をもっているが、実態として、スクールソーシャルワーカーは福祉の分野に関する方ということで、学校現場ではもう少し認識が欲しいところもある。例えば南国市では、校長会を通じてスクールソーシャルワーカーの役割はどういったものかということ、学校長から教職員にきちんと説明をしておいてくださいといった要請を毎年かけているが、どういったところを助けてもらいたいのかということ、教員自身が分かっていない部分もあるのではないかと。

(岡谷委員)

ヤングケアラーのところで、中高生の実態調査をされるということだったが、保護者にアンケートをとるのか、子どもたちにとるのか。先ほど佐田委員も言われたように、子どもたちはヘルプ

を出しづらい状況もあるので、調査の方法はとても重要になってくると思う。調査方法も考えていただければと思う。

スクールソーシャルワーカーについては、とても重要なことで、非正規で雇っていると、なかなか関わりづらいという声を高知市からもお聞きしている。ぜひしっかりと予算を取っていただき、正規に雇っていただき、竹内委員が言われるように目的をはっきりとさせ、充実させていきたいと思う。

強化のポイントのところに市町村児童福祉担当部署とあるが、先ほど外国人の話もあったが、あらかじめリスクがある家庭だけではなく、急にリスクが高まる家庭もあり、それで学生が学業を諦めるというようなことも出てきている。保護者のケアは病院のソーシャルワーカーがされるので、そことの連携もしなければいけないということを考えると、やはりスクールソーシャルワーカーの予算取りをしっかりとお願いしたい。

(岡谷議長)

予定している議事はすべてご審議をいただいたので、あとは事務局で検討し、施策を進めていきたい。